

地域と企業の未来を見つ

める情報誌

百五経営情報クラブ

ISSN 0914-0387

HRI REPORT

Hyakugo Research Institute

January 2017
No.163

1

特集：2017年 新春討論会

三重の未来に向けて ～サミットのレガシーをどう活かすか～

トピックス

お伊勢さん菓子博2017 開催直前レポート
神様が選んだ国立公園 伊勢志摩国立公園指定70周年

企業紹介

赤塚グループ[®] (株式会社赤塚植物園 / 株式会社赤塚 / 株式会社エフエフシー・ジャパン)
株式会社 佐野テック

Photo / 「三寺町獅子舞」



02 2017年 新春討論会

三重の
未来に向けて

～サミットのレガシーをどう活かすか～



12 戦国武将 第十七回

「幕政の改革コンビへ」

徳川吉宗と大岡忠相 最終回

企業紹介

15 赤塚グループ

株式会社赤塚植物園／株式会社赤塚／株式会社エフエフシー・ジャパン



21 株式会社 佐野テック



25 お知らせ

「総研懇話会」開催のお知らせ

26 トピックス

お伊勢さん菓子博2017 開催直前レポート

28 トピックス

神様が選んだ国立公園 伊勢志摩国立公園指定70周年



30 トピックス

2017年の三重県経済の見通し

38 三重の文化を知る

旧長谷川邸と長谷川家の歴史

40 百五銀行 海外駐在員だより「シンガポールレポート」

高速鉄道計画とシンガポールにおける鉄道事情

42 続・知ってナットク!!

社会保険の被保険者の適用範囲が拡大しました!



44 コラム「道標」

酉年に想う

Cover Photo

みつでら
「三寺町獅子舞」

撮影地：三重県亀山市三寺町

角の在るのが特徴の獅子頭は、地区の氏神である石神社の御神体とされ、丑・辰・未・戌年の正月に家内安全や無病息災を願って奉納される獅子舞で、市指定の無形民俗文化財として保存会や自治会が中心となって传承されています。

この写真を撮影した平成27年元日は、折しも途中から降りはじめた牡丹雪がムシロ敷きの会場を覆うほどの積雪となりましたが、演目は中断されることなく続けられ、口取りを務める子役が獅子を相手に駆け回る姿が印象的で、観衆から盛大な拍手が送られました。

撮影／北出 正之

一人の健康から地球の未来まで



AKATSUKA

赤塚グループ

株式会社赤塚植物園／株式会社赤塚／株式会社エフエフシー・ジャパン



本社社屋(右)とFFCミュージアム(左)

3社によるグループ体制 で地球環境の浄化と健康 づくりに貢献

津市を中心に「花と緑の事業」と「水の技術FFCの事業」を展開する赤塚グループ。グループは株式会社赤塚植物園、株式会社赤塚、株式会社エフエフシー・ジャパンの3社から構成される。

海外の園芸文化をいち早く導入し県内農家や園芸業界をけん引。独自技術で環境改善と健やかな暮らしを提供する赤塚グループ。生産者が主体となる新たな地域活性化ビジネスモデルへの挑戦が始まった。



代表取締役会長 赤塚 充良氏

代表取締役社長 赤塚 耕一氏

企業概要

名 称	赤塚グループ (株式会社赤塚植物園、株式会社赤塚、株式会社エフエフシー・ジャパン)
所 在 地	津市高野尾町1868番地の3 (株式会社赤塚植物園) TEL:059-230-1234 FAX:059-230-0576
創 業	1961年(昭和36年)
設 立	1972年(昭和47年)
資 本 金	8,500万円(グループ計)
従業員数	210名(グループ計)
事業内容	園芸植物の生産・卸販売・小売販売・貿易業務 (種苗、球根、園芸資材等)・育種開発、清涼飲料水・スキンケア製品・水改質活性化装置・土壌改質材の販売等

U R L <http://www.akatsuka.gr.jp/>

「花と緑の事業」の中心を担う株式会社赤塚植物園の歴史は古く、50年以上前に海外の園芸文化を日本に導入し、県内の農家や国内の園芸業界をけん引してきた。

主な事業内容は、自社農場での生産と卸売、園芸売店「FFCパビリオン」での小売、研究施設での育種開発やバイオ技術を

「高野尾花街道 朝津味」と「レッドヒル ヒーサーの森」



「経済・環境・健康」で 地域を活性化

津市北部に位置する高野尾地区は近畿圏・中部圏から伊勢に通じる伊勢別街道に面し、古くから交通アクセスの良いところにある。また、豊かな土壌を活かして農業が発展し、1965年頃には三重サツキ、ヒラドツジが全国の相場を左右するほどの

一大産地であった。

しかし、時代の変遷により緑化需要は減少。地域の活力低下が懸念されるようになった。そこでもう一度、地域の資源を見直し、新たな視点から農産物の販売機能などを整備することで、高野尾地区の交流人口の拡大、雇用の増加、将来に希望の持てるまちづくりを目指したいと考えた。

2016年7月2日、この地区にオープンした「高野尾花街道朝津味(あさつみ)」では、農産物直売所、農家レストラン、体験農園、地域交流施設などが運営されている。また、隣接する「レッドヒルヒーサーの森」と連携することで施設の魅力を高め、集客に繋げる工夫をしている。出荷者への利益還元と農業など関係分野の地位向上、技術向上を図り、中勢エリアの産業観光にも貢献できる新たな交流拠点となることを目指している。

産官学連携で魅力と生命力あふれる農産物の生産

朝津味を運営する株式会社フューチャーファーム・コミュニティ三重は、三重大学をはじめ各大学、高校、行政など多くの専門機関と連携して、農業の付加価値を高める取り組みを積極的に行っている。農業不使用栽培の食用花(エディブルフラワー)を使用した商品の販売や三重県産大豆を使った豆腐の開発、FFCテクノロジーの技術を利用したヨモギ栽培とヨモギを使用した商品



連携による新商品の開発

の開発など、地区で収穫した生産物の加工品の開発に取り組んでいる。これらを通して「地域コミュニティの再生、地域ブランドの創出、新規就農者の発掘と育成、若者の定住促進に貢献していきたい」と社長は語る。



FFCパイロゲン



使った苗の生産、海外農場からの輸入、インターネット上での直販などを行う。また、栽培見本農場「レッドヒルヒーサーの森」や植物温室「FFCユートピアファーム」、梅園「鈴鹿の森庭園」の運営を行っている。

「水の技術FFCの事業」では独自開発した動植物の機能を高める水の技術を生かした事業を展開している。同グループでは1984年から水の機能性につ

いての研究を開始。動植物や微生物の働きを活性化させる水を生み出す技術を開発してFFCテクノロジ(特殊な鉄分Ferrous Ferric Chloride由来)と命名している。この技術を応用して健康、美容、水改質、土壌改質の4分野でFFC製品を販売し、多くの一般家庭や事業所で利用されている。

家庭用は株式会社赤塚が取り扱い、健康飲料「FFCパイロゲン」を中心に現在の会員は約65,000世帯である。事業所用は株式会社エフエフシー・ジャパンが取り扱い、契約事業者は約900社に上る。

集大成は故郷の 高野尾地区で農業の 理想郷を創ること

会長は中学卒業と同時に生家の農業に従事することを決意。渡米研修で得た体験を基に新しいビジネスへのチャレンジを続け、実績を積み重ねてきた。2011年に赤塚グループ各社の社長職を長男の耕一氏に継承し、その後は「企業家としての集

大成」と自ら語る事業に取り組んでいる。「高野尾花街道」と名付けた事業で、土づくりを最も大切なことと捉え、生命力の高い安心安全な農作物を提供すること、農業を他と比べて遜色のない産業に育て上げることがめざす「農業の理想郷(フューチャーファーム・コミュニティ・ヴィレッジ)」を創ることを理念にしている。

「故郷であり、創業の地である津市高野尾地区で、経済・環境・健康をキーワードに地域の活性化を図っていきたい」と会長は語る。



FFCユートピアファーム

施設概要

高野尾花街道 朝津味

①ファーマーズマーケット(産地形成促進施設)【施設面積 1,080㎡】

農産物直売所【施設面積 650㎡】

多品種少量生産を推奨し、出荷会員は700軒を目指す。

- ・地域で生産される農作物を中心に販売
- ・花木事業活性化のための花木販売
- ・地域生産物消費拡大のための加工食品販売

加工工房【施設面積 120㎡】

- ・三重県産大豆100%の豆腐や豆腐加工品の製造
- ・高野尾で栽培したよもぎを使った草もちや和菓子の製造
- ・高野尾婦人会が作る地元のとりめし他、惣菜の製造



農産物直売所

②フードコート(地域食材供給施設)【施設面積 840㎡】

相可高校食物調理科の村林教諭監修のもと、

地域食材を中心としたメニューやスイーツを提供(農家レストラン)

- ・消費の減少懸念のある餅米やうるち米、米の転作物としての小麦や大豆の消費拡大をねらった献立の開発、提供
- ・三重県産小麦を100%使用した自家製麺うどん
- ・「食用花」(エディブルフラワー)を使用したメニューの活用



イベントの様子

③交流館(地域交流促進施設1)【施設面積 700㎡】

- ・地域情報センター兼総合案内所
- ・食農教育キッチンスタジオ
- ・研修室(128席)地域学習、環境学習、地域食材の紹介、生産者向け営農教育等を開催

④全天候型イベント広場(地域交流促進施設2)【施設面積 320㎡】

イベント広場での地域イベント(次世代農業、地域交流、環境交流、食育交流)の開催

⑤ゆめひろば(屋外ふれあいイベント広場)【施設面積 820㎡】

⑥その他

回廊【施設面積 320㎡】

駐車場【11,400㎡】

普通乗用車317台、身障者専用6台、大型観光バス25台

運営会社：株式会社フューチャー・ファーム・コミュニティ三重
所在地：津市高野尾町5680番地
TEL：059-230-8701
営業時間：9:30～18:00(フードコートの営業時間は別途)
定休日：火曜日
URL：http://takanoo-hanakaido.jp/

レッドヒル ヒーサーの森

運営会社：株式会社赤塚植物園

所在地：津市高野尾町2877番地

TEL：059-230-7789

営業時間：9:30～17:00(季節により異なる)

定休日：火曜日

入場料：800円～1,200円(季節により変動)

※小学生以下無料。保護者同伴に限り大人1名に子ども2名まで入場可



レッドヒル ヒーサーの森



観光と農業、自然と人との交流から高野尾花街道を盛り立てるスポットが誕生

赤塚グループは2016年9月30日、朝津味の隣りに栽培見本農場「レッドヒルヒーサーの森」をオープン。豊かな里山の自然が溢れる憩いの場として一般公開している。およそ13ヘクタールの広大な里山で、シヤクナゲを中心約1000品種、1万本以上に

の花木を楽しむことができる。シンボルツリーは「世界一のつばの木」で知られるセンペルセコイア。別名レッドウッドと呼ばれることから、この里山を「レッドヒル」と名付けた。施設は2つのエリアで形成されている。センペルセコイアの大木が育ち、清々しい野山の空気と木々のエネルギーに溢れる「森のエリア」と、約400品種1500本のバラを楽しむ「ローズガーデン」、大輪のスイレンが咲く

く池、約200種類を数える四季折々の宿根草で彩られた小道が魅力の「花のエリア」である。参加型イベントとして2001年から「レッドヒル親子写生大会」を開催している。「たくさん自然に触れ、絵を描くことで親子の絆を深めてもらいたい」との想いから、シヤクナゲが美しい春に里山を解放して開催している。週末には社員自らが企画する音楽ライブをエントランスステージで開催し、定番の人気イベントになっている。

地域の幸せの道標になるビジネスモデルとして

「世の中の常識を変えるには、損得勘定なしの決断が必要」と語る赤塚会長。仕事人生は決して平坦ではなかったが、目指す先には常に故郷の農業振興と地域の幸せを願う心があつた。

集大成ビジネスと公言する高野尾花街道事業。赤塚会長の仕事人生が集結した夢街道は新たな道標が示されたばかりである。

編 Ⅱ 会員事業部 松田 千夏



レッドヒル親子写生大会

